

	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	八田尚人
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 初期のセンチネルリンパ節生検における多数例の解析である。主に色素法を用いているため偽陰性率が若干高いが、センチネルリンパ節生検に伴う有害事象がみられなかったことは特筆される。

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外バジレット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Potential applications of Intoperative lymphatic mapping in vulvar cancer	
	論文の日本語タイトル	外陰癌における術中リンパ流マッピングの有用性	
診療ガイドライン情報	* 診療ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	* 診療ガイドラインでの目次名称	PagetCQ7-2	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	7590476	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Gynecol Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	59	
	号	2	
	ページ	216-20	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1995 Nov		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
		Levenback C.	Department of Gynecologic Oncology, University of Texas M. D. Anderson Cancer Center
	その他著者 1	Burke T.W.	
	その他著者 2	Morris M.	
	その他著者 3	Malpica A.	
	その他著者 4	Lucas K.R.	
	その他著者 5	Gershenson D.M.	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	乳房外バジレット病におけるセンチネルリンパ節生検の意義を調べる	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	M. D. Anderson Cancer Center	
	対象者	21人の外陰癌患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (2)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入（要因曝露）	介入なし	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
			1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	21例中18例でセンチネルリンパ節を同定、5例に転移がみられた。同定後確認した非センチネルリンパ節には転移がみられなかった。		
結論	術中リンパ流マッピングはセンチネルリンパ節の同定に有用である		
備考			
レビュワー氏名	八田尚人		
レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 外陰癌患者の治療に色素を用いた術中マッピングを行った症例報告である。外陰のリンパ流が原発の部位によって両側に存在する可能性があること、個々の例でリンパ流に差がみられることが示されている。有棘細胞癌と乳房外バジレット病を同等に論じることはできないが、リンパ流の分布という点では参考になる報告である。		

一次研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病		
	タイプ	臨床専門情報		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Sentinel lymph node biopsy in patients with extramammary Paget's disease.		
	論文の日本語タイトル	乳房外パジェット病におけるセンチネルリンパ節生検		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ7-3		
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I V ）		
	Pubmed ID	15458530		
	医中誌 ID			
	雑誌名	Dermatol Surg.		
	雑誌 ID			
	巻	30		
	号	10		
	ページ	1329-34		
	ISSN ナンバー	1076-0512		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
	発行年月	2004 Oct		
	著者情報	氏名	所属機関	
		筆頭著者	Hatta N	金沢大学医学部皮膚科
その他著者 1		Monta R		
その他著者 2		Yamada M		
その他著者 3		Echigo T		
その他著者 4		Hirano T		
その他著者 5		Takehana K		
その他著者 6		Ichiyanagi K		
その他著者 7		Yokoyama K		
その他著者 8				
その他著者 9				
その他著者 10				

一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病におけるセンチネルリンパ節生検の意義を調べる	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	金沢大学医学部附属病院皮膚科	
	対象者	13人の外陰部乳房外パジェット病患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	介入なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	センチネルリンパ節生検を施行した 13 例中 4 例で転移がみられ、そのうち 3 例は遠隔転移により死亡した。生検で陰性だった 9 例は観察期間中再発がなかった。	
	結論	乳房外パジェット病の治療においてセンチネルリンパ節生検は有用であることが示唆された。	
	備考		
	レビューワー氏名	八田尚人	
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 乳房外パジェット病の治療にセンチネルリンパ節生検を用いた非比較研究としては最初の報告である。生検の適応や、陽性例における郭清術などの追加治療が予後を改善するかに関する研究がないので、センチネルリンパ節の有用性を結論づけることはできない。しかし、13 例と少数ではあるが、生検結果が予後とよく相関していることから、センチネルリンパ節の予後予測における有用性は認められる。本研究はセンチネルリンパ節生検がステージングの難しい例における判断材料になりうるという点で、有用であると考えられた。症例数は少ないが、比較的主とまった症例数を長期に詳細に検討しており、かつ本症の報告例が少ないことを勘案し、コホート研究に準ずるものと評価した。		

一次研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	外陰癌		
	タイプ	臨床専門情報		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Characteristics of recurrence in patients who underwent lymphatic mapping for vulvar cancer		
	論文の日本語タイトル	リンパ流マッピングを施行した外陰癌患者における再発の特徴		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ7-4		
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I V ）		
	Pubmed ID	14751159		
	医中誌 ID			
	雑誌名	Gynecol Oncol		
	雑誌 ID			
	巻	92		
	号	1		
	ページ	205-10		
	ISSN ナンバー			
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
	発行年月	2004		
	著者情報	氏名	所属機関	
		筆頭著者	Frumovitz, M.	Department of Gynecologic Oncology, The University of Texas MD Anderson Cancer Center
その他著者 1		Ramirez, P. T.		
その他著者 2		Tortolero-Luna, G.		
その他著者 3		Malpica, A.		
その他著者 4		Eifel, P.		
その他著者 5		Burke, T. W.		
その他著者 6		Levenback, C.		
その他著者 7				
その他著者 8				
その他著者 9				
その他著者 10				

一次研究の 8 項目	目的	センチネルリンパ節生検後再発した症例の詳細を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Department of Gynecologic Oncology, The University of Texas MD Anderson Cancer Center	
	対象者	1993 年から 1999 年までセンチネルリンパ節生検を行った外陰癌患者外陰癌患者 52 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (2)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (2)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	介入なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	52 例中 14 例 (27%) に再発を認めた。8 例が原発巣に 3 例が鼠径リンパ節に、遠隔転移が 3 例であった。SCC9 例中 32 例 (22%)、黒色腫 7 例中 4 例 (57%) 乳房外 Paget 病 1 例中 1 例に再発を認めた。 SLN 同定の有無、SLN および non-SLN における転移の有無は再発率と相関しなかった。SLN 陰性で non-SLN 陽性の例はなかった。鼠径リンパ節の再発 3 例は SLN non-SLN とも陰性 1 例、SLN non-SLN とも陽性 1 例、SLN が同定できず non-SLN 陰性が 1 例であった。		
結論	リンパ流マッピングをした場合も再発のパターンはしない場合と変わらなかった。センチネルリンパ節が陰性で鼠径領域に再発した例がみられた。このことはセンチネルリンパ節生検を外陰癌の標準治療に組み入れる際、十分な検討が必要であることを示している。		

	備考	
レビューコメント	レビューワー氏名	八田尚人
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 比較的多数例の解析である。3例（6%）にリンパ節の再発がみられている。この報告ではセンチネルリンパ節の同定を色素法のみで行っており、手技的な問題も考えられる。

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Micrometastatic Paget's disease.	
	論文の日本語タイトル	微小浸潤乳房外パジェット病	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	PagetCQ7-5	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（V）	
	PubMed ID	15581999	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Gynecol Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	95	
	号	3	
	ページ	755-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原文言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004	
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Ewing T	Kaiser Permanente Medical Center 産科婦人科
	その他著者 1	Sawicki J	
	その他著者 2	Claravino G	
	その他著者 3	Rumore GJ	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	微小浸潤パジェット病におけるセンチネルリンパ節生検結果の報告	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	Kaiser Permanente Medical Center 産科婦人科	
	対象者	3人の外陰部乳房外パジェット病患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (2)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	介入なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	微小浸潤を伴う乳房外パジェット病患者 3例においてセンチネルリンパ節生検を施行した。3例中 1例で転移がみられ、郭清術を行ったが他のリンパ節に転移はなかった。その後 26カ月の観察期間に転移はみられない。	
	結論	乳房外パジェット病の治療においてセンチネルリンパ節生検は有用であることが示唆された。	
備考			
レビューワー氏名	八田尚人		
レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（V） 乳房外パジェット病の治療にセンチネルリンパ節生検を用いた 3例の報告である。生検で転移を認めた 1例はその後のリンパ節郭清で他のリンパ節に転移がみられなかったため、色素を用いたセンチネルリンパ節の同定は正確であることが示されている。また、転移リンパ節の切除後、新たな転移がみられないことから外陰部パジェット病における「センチネルリンパ節生検—陽性なら郭清」という治療方針の意義が示唆される。		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外バジレット病	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	外陰部 Paget 病におけるセンチネルリンパ節生検	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ()	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ7-6	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I V)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	臨床皮膚科	
	雑誌 ID		
	巻	59	
	号	5	
	ページ	71-74	
	ISSN ナンバー	0021-4973	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)		
発行年月	2003		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	清原祥夫,	静岡がんセンター皮膚科
	その他著者 1	吉川周佐,	
	その他著者 2	川名誠司,	
	その他著者 3	藤原規広,	
	その他著者 4	大塚正樹,	
	その他著者 5	石田彩,	
	その他著者 6	中川雅裕,	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			
一次研究の 8 項目	目的	乳房外バジレット病	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	静岡がんセンター皮膚科	

対象者情報 (年齢)	対象者	RI 法と色素法によるセンチネルリンパ節生検を行った乳房外バジレット病患者 25 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	介入なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	主な結果	24 例 (98%) でセンチネルリンパ節を同定した。17 例は両側にみられた。5 例 8 個の SLN に転移を認め 3 例が原病死した。SLN に転移のなかった 20 例は転移がみられなかった。	
	結論	センチネルリンパ節生検は外陰部バジレット病の N 診断やリンパ節転移の適応条件として有用であると思われる	
	備考		
レビューコメント	レビューワー氏名	八田尚人	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) センチネルリンパ節の手法などを解説した総説に自験 25 例の成績を述べた論文である。25 例と比較的多数であるにも関わらず陰険性例がないことが特徴される。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	外陰癌	
	タイプ	臨床専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pitfalls in the sentinel lymph node procedure in vulvar cancer	
	論文の日本語タイトル	外陰癌におけるセンチネルリンパ節生検手技の落とし穴	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ()	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ7-7	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Gynecol Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	94	
	号	1	
	ページ	10-15	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2003		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	de Hullu, J. A.	Department of Gynecologic Oncology, University Medical Centre Nijmegen
	その他著者 1	Oonk, MH	
	その他著者 2	Ansink, AC	
	その他著者 3	Hollema, H	
	その他著者 4	Jager, PL	
	その他著者 5	van der Zee, AG	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	婦人科領域のセンチネルリンパ節生検の安全性に関して検証する	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	Nijmegen 大学医療センター婦人科	
	対象者	外陰癌患者 2 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (2)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (2)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (5)	
	介入 (要因曝露)	介入なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	主な結果	1 例では色素法でも RI 法でもセンチネルと認められなかったリンパ節に転移がみられた。転移リンパ節に至るリンパ流が閉塞していたためと考えた。もう 1 例では nonSLN に転移がみられたが、センチで 2 個集積がみられたうちの 1 個しか抽出していなかった手技に問題があると思われる。	
	結論	転移リンパ節を見逃さないために術前の評価を十分することが重要である。また、術中の触診・凍結標本による迅速診断により見逃さないように注意する。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	八田尚人
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ V ） 外陰癌に関わらずセンチネルリンパ節生検において必要な手技の注意点について述べた論文である。リンパ管の閉塞は乳房外バジレット病においてよくみられる所見であり、重要なポイントを含んでいる。

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外バジレット病	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	京都府立医科大学皮膚科における最近 10 年間(1982～1991)の Paget 病の統計的観察	
診療* 休* 位情報	* 休* 位での引用有無	1.有り 2.無し ()	
	* 休* 位上での日次名称	PagetCQ8-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I V)	
	PubMed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	西日本皮膚科	
	雑誌 ID		
	巻	58	
	号	1	
	ページ	116-120	
	ISSN ナンバー	0386-9784	
	雑誌分野	1.医学 2.薬学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1996, 1	
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	上田英一郎	京都府立医科大学皮膚科
	その他著者 1	森島陽一	
	その他著者 2	永田誠	
	その他著者 3	野田洋介	
	その他著者 4	竹中秀也	
	その他著者 5	岸本三郎	
	その他著者 6	安野洋一	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外バジレット病における予後因子の検討	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	京都府立医科大学皮膚科	
	対象者	1982-91 年の乳房外バジレット病患者 28 例と乳房バジレット病 2 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	なし	
	エンドポイント (7外注)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	真皮内浸潤は 14/26 (53.8%)、リンパ節転移は 8 例にみられた。11 例で予防的リンパ節摘出を行った。予防的リンパ節摘出施行では再発はみられていない。所属リンパ節転移および血清 CEA 高値群は有意に予後が悪かった。		
結論	所属リンパ節転移および血清 CEA 高値は乳房外バジレット病における危険因子である		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	八田尚人	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I V) 原則的に予防リンパ節摘出を行っているが、予後と関連づけた考察はない。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	乳房外 Paget 病の診断と治療	
診療科/作/引用情報	引/作/引用の有無	1.有り 2.無し ()	
	引/作/引用上での目次名称	PagetCQ8-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I V)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	8	
	号		
	ページ	187-208	
	ISSN ナンバー	0915-3535	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)		
発行年月	1993		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	大原国章	虎の門病院皮膚科
	その他著者 1	大西泰彦	
	その他著者 2	川端康浩	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			
一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病における治療法の検討	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	虎の門病院皮膚科	

対象者	乳房外パジェット病患者 109 例		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)		
	介入 (要因曝露)	なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	男女比は約2:1、外陰例が104例(triple 2, double 1を含め)、肛門3例、腋窩4例(triple 2, double 1を含め)腹部1例。浸潤癌は全体の約30%を占め、その約40%にリンパ節転移があった。転移例のうち、両側鼠径リンパ節転移例の予後は極めて不良で全例死亡。早期浸潤癌の組織所見では腫瘍細胞が雨垂れの様に表皮から直接に散在性に滴落するのが特徴であった。		
結論			
備考			
レビュワー氏名	八田尚人		
レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I V) 日本の多数例を基に乳房外パジェット病の診断、治療に関して解説した優れた総説		

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	富崎大学医学部皮膚科学教室開講以来 27 年間に経験した乳房外 Paget 病 58 例の統計	
診療科/作/引用情報	引/作/引用の有無	1.有り 2.無し ()	
	引/作/引用上での目次名称	PagetCQ8-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I V)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	西日本皮膚科	
	雑誌 ID		
	巻	67	
	号	4	
	ページ	387-391	
	ISSN ナンバー	0915-3535	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)		
発行年月	2005		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	菊池英雄	富崎大学医学部皮膚科
	その他著者 1	津守伸一郎	
	その他著者 2	黒川基樹	
	その他著者 3	瀬戸山亮	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

目的	臨床病理学的因子と予後との相関を検討する		
研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
セッティング	富崎大学医学部皮膚科学		
対象者	1977 年 11 月から 2003 年 3 月までの乳房外 Paget 病 58 例		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)		
	介入 (要因曝露)	なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	初診時年齢は 46~88 歳、平均 71.4 歳、男性 32 例、女性 26 例であった。発生部位は外陰部 50 例(86.2%)、外陰部から会陰部 4 例(6.9%)、肛門部 2 例(3.4%)、腋窩部 2 例(3.4%)であった。腫瘍形成をみたものは 17 例(29.3%)で、真皮内浸潤を示したのは 36 例(62.1%)であった。58 例中、触診上、画像上でリンパ節腫脹が認められたものは 18 例(31.0%)で、また 6 例に画像検査で他臓器への遠隔転移を認めた。5 年生存率は 68.2%で病期別には stage IA 及び stage IB で 100%、stage II 以上では 0%であった。リンパ節転移陽性、CEA 高値群は有意に予後が悪かった		
結論	組織学的な浸潤レベルが治療方針決定に重要である		
備考			

レビューコメント	レビューワー氏名	八田尚人
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） リンパ節転移の有無による生存率の違いを提示している。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	金沢大学皮膚科における最近16年間の乳房外Paget病の統計	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ()	
	ガイドライン上の目次名称	PagetCQ8-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（Ⅳ）	
	PubMed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	権誌 ID		
	巻	20	
	号	3	
	ページ	311-317	
	ISSN ナンバー	0915-3535	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	2005	
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	山田瑞貴	金沢大学医学部皮膚科
	その他著者 1	藤本晃英	
	その他著者 2	竹原和彦	
	その他著者 3	八田尚人	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	臨床病理学的因子と予後との相関を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	金沢大学医学部皮膚科	
	対象者	乳房外 Paget 病患者 55 人	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (7) (件)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	初発時平均年齢は 70.8 歳、男女比は 2.9:1 で男性に多かった。発生部位は外陰部:50 例、肛門:3 例、下腹部:1 例、腋窩:4 例であった。他臓器転移併発は 7 例で、全て男性であった。腫瘍細胞の浸透度は、表皮内癌(T1):51%、基底膜を破って真皮内に微小浸潤(T2):34%、結節性浸潤癌(T3):4%、結節性浸潤癌で脈管侵襲を伴うもの(T4):11%であった。リンパ節転移は 10 例(18%)に認め、局所再発は 4 例(7%)に生じた。遠隔転移は 6 例(11%)に認め、全て男性で、化学療法を行ったが治療効果はなく、初診から平均 9 ヶ月で全例腫瘍死した。原病死は T2 が 2 例、T4 が 5 例であった。リンパ節腫瘍は 21 例にあり、転移は 10 例にみられた。リンパ節腫瘍のない症例では死亡例はなかった。転移のあったリンパ節 2 個以下と 3 個以上では生存率に有意差はなかった		

	結論	結節の有無と浸潤レベルが予後と相関していた
	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	八田尚人
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠV） 腫瘍の浸潤レベルと予後を解析した研究として重要である。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	乳房外 Paget 病患者 45 人の臨床病理学的検討	
診療行為の引用情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し ()	
	論文上の目次名称	PagetCQ8-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システムティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ⅠV）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	16	
	号	1	
	ページ	114-119	
	ISSN ナンバー	0915-3535	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)		
発行年月	2001		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	町田秀樹	国立がんセンター中央病院皮膚科
	その他著者 1	中西泰浩	
	その他著者 2	山本明史	
	その他著者 3	山崎直也	
	その他著者 4	野呂佐知子	
	その他著者 5	石川雅士	
	その他著者 6	石原和之	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

目的	腫瘍細胞の深達度と転移の有無の関係を検討する	
研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
セッティング	国立がんセンター中央病院皮膚科	
対象者	乳房外 Paget 病患者 45 人	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (1)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (15)	
介入 (要因曝露)	エンドポイント	
アウトカム (アウトカム)	区分	
1	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
2	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10	1.主要 2.副次 3.その他 ()	
一次研究の 8 項目		
主な結果	腫瘍細胞の深達度により IE1 (2 人), MD1 (24 人), D1 (5 人), SI (4 人) 4つに分類した。腫瘍細胞が深部へ浸潤するほど転移の頻度が増加し、予後が悪くなった。手術方法別では、術中迅速病理診断を行わずに病変を切除(CE)29 人、術中迅速病理診断を行い病変を切除(PE)9 人、機能温存術 CE, PE の順に高く、断端陽性率も同様であった。IE と MD1 にはリンパ節転移を認めなかった。	
結論	浸潤レベルが予後にも影響する	

	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	八田尚人
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠⅣ） 腫瘍の浸潤レベルと予後を解析した研究として重要である。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	乳房外 Paget 病の診断と治療	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ()	
	ガイドライン上での目次名称	PagetCQ9-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー/メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ⅠⅣ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	8	
	号		
	ページ	187-208	
	ISSN ナンバー	0915-3535	
	雑誌分野	1.医学 2.哲学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1993	
	著者情報	筆頭著者	氏名
筆頭著者		大原国章	虎の門病院皮膚科
その他著者 1		大西泰彦	
その他著者 2		川端康浩	
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			
一次研究の 8 項目	目的	乳房外パジェット病における治療法の検討	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	虎の門病院皮膚科	
	対象者	乳房外パジェット病患者 109 例	

対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず* (1)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)		
	介入 (要因曝露)	なし	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	男女比は約2:1、外陰例が104例(triple 2, double 1を含め)、 肛門3例、腋窩4例(triple 2, double 1を含め)腹部1例。 浸潤癌は全体の約30%を占め、その約40%にリンパ節転移が あった。転移例のうち、両側鼠径リンパ節転移例の予後は極 めて不良で全例死亡。早期浸潤癌の組織所見では腫瘍細胞が 雨垂れの様に表皮から直接に散在性に滴落するのが特徴で あった。		
結論			
備考			
レビュワーコメント	レビュワー氏名	八田尚人	
	レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠⅣ） 日本の多数例を基に乳房外パジェット病の診断、治療に関して解説 した優れた総説	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外パジェット病	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	埼玉県立がんセンターにおける15年間の外陰部Paget病の治療経験	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ()	
	ガイドライン上の日次名称	PagetCQ9-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見(I V)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	12	
	号	3	
	ページ	374-377	
	ISSN ナンバー	0915-3535	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)		
発行年月	2005		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	並木剛	埼玉県立がんセンター
	その他著者 1	柳川茂	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			
一次研究の 8 項目	目的	臨床病理学的因子と予後との相関を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	

セッティング	埼玉県立がんセンター		
対象者	乳房外 Paget 病患者 30 人		
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)		
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)		
	介入 (要因曝露)		
	エンドポイント (7/14)	エンドポイント	区分
	1		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	性比は男3:女1で、平均年齢は69.4歳。皮膚症状としてはびらんが最も多く23例、結節が4例、白斑が2例であった。大原TNM分類ではI期16例、II期8例、III期2例、IV期4例で、I~III期の全例は手術のみで生存、IV期は全て死亡した28例中25例にマージン2cm以下の縮小手術を行ったが、再発はみられない。		
	結論 不必要な拡大手術は不要である		
レビューコメント	レビューワー氏名	八田尚人	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I V) TNM 分類と予後とを関連づけて報告している。N2 例が全て死亡していることから積極的な病期を疑問視するコメントがある	

形式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	文献レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の日次名称	PagetCQ10-1、	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見(1)	
	Pubmed ID	15713139	
	医中誌 ID		
	雑誌名	BJOG	
	雑誌 ID		
	巻	112	
	号		
	ページ	273-279	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2005		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Shepherd V	Clatterbridge Center for Oncology
	その他著者 1	Davidson EJ	同上
	その他著者 2	Davies-Humphreys J	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	乳房外 Paget 病の文献的レビュー	
	データソース	Medline	
	研究の選択	特定なし	
	データ抽出	Key words(Extramammary Paget's disease, vulva, Paget's)	
	主な結果	乳房外 Paget 病は外陰部癌の 3~5%で、稀な疾患。診断には生検が重要。20~30%に内臓悪性腫瘍の合併あり。手術が治療の第1選択であったが、再発率は40%と高く、術後も長期に亘る経過観察が必要であった。手術のほかには、放射線治療、外用または全身的化学療法、レーザー治療、光学的治療、Mohs'顕微鏡手術などが試行されていた。	
	結論	各種治療法の有用性を検証するためには、多施設共同の前向き無作為対照試験が必要である。	
レビューコメント	レビューワー氏名	高田 実	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) ごく最近までの文献を網羅した乳房外 Paget 病に関する最も優れた総説。参照された個々の文献はいずれも少数例の症例解析であり、各項目におけるエビデンスレベルはいずれも低いが、本症の報告が少ないことを勘案すると、現時点ではシステマティック・レビューに準ずるものと評価した。	

形式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	文献レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	皮膚の腺癌の化学療法・免疫療法 皮膚悪性腫瘍に対する化学療法及び免疫化学療法の適応と現状 乳房外バジレット病・汗腺癌	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	PagetCQ10-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (1)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	2004075693	
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	2	
	ページ	93-98	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	宇原 久	信州大学医学部皮膚科
	その他著者 1	齋田俊明	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	乳房外 Paget 病および皮膚の腺癌に対する化学療法の文献的レビュー
	データソース	医中誌
	研究の選択	特定なし
	データ抽出	Key words 乳房外 Paget 病, 化学療法
主な結果	乳房外 Paget 病の原発巣および転移巣に対する化学療法で長期の寛解が得られることは極めて稀であったが、VP-16、Docetaxel、CDDP+5-FU などの持続少量投与は有害反応が少なく、QOL の改善が認められることがあった。	
結論	各種治療法の有用性を検証するためには、進行期症例におけるさらなる検討が必要である。ホルモン療法、Herceptin、Bisphosphonate などが新しい治療法として注目される。	
備考	乳房外 Paget 病, CQ10, 文献 2, CQ11, 文献 1	
レビューコメント	レビューワー氏名	高田 実
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (1) 乳房外 Paget 病に対する化学療法について内外のごく最近までの文献を網羅した総説。しかし、参照された個々の文献はいずれも少数例の症例解析であり、各項目におけるエビデンスレベルはいずれも低いが、本症の報告が少ないことを勘案すると、現時点ではシステマティック・レビューに準ずるものと評価した。

形式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	文献レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	皮膚の腺癌の化学療法・免疫療法 皮膚悪性腫瘍に対する化学療法及び免疫化学療法の適応と現状 乳房外バジレット病・汗腺癌	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	PagetCQ11-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (1)	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	2004075693	
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	2	
	ページ	93-98	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	宇原 久	信州大学医学部皮膚科
	その他著者 1	齋田俊明	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	乳房外 Paget 病および皮膚の腺癌に対する化学療法の文献的レビュー
	データソース	医中誌
	研究の選択	特定なし
	データ抽出	Key words 乳房外 Paget 病, 化学療法
主な結果	乳房外 Paget 病の原発巣および転移巣に対する化学療法で長期の寛解が得られることは極めて稀であるが、VP-16、Docetaxel、CDDP+5-FU などの持続少量投与は有害反応が少なく、QOL の改善が認められることがあった。また、ホルモン療法、Herceptin、Bisphosphonate などが新しい治療法として注目される。	
結論	各種治療法の有用性を検証するためには、進行期症例におけるさらなる検討が必要である。	
備考	乳房外 Paget 病, CQ10 文献 2, CQ11 文献 1	
レビューコメント	レビューワー氏名	高田 実
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (1) 乳房外 Paget 病に対する化学療法について内外のごく最近までの文献を網羅した総説。しかし、参照された個々の文献はいずれも少数例の症例解析であり、各項目におけるエビデンスレベルはいずれも低いが、本症の報告が少ないことを勘案すると、現時点ではシステマティック・レビューに準ずるものと評価した。

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Trial of low-dose 5-fluorouracil/cisplatin therapy for advanced extramammary Paget's disease.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	PagetCQ11-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ V ）	
	Pubmed ID	14871231	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatol Surg	
	雑誌 ID		
	巻	30	
	号	2 Part 2	
	ページ	341-4	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kariya K	名古屋市大皮膚科
	その他著者 1	Tsuji T	同上
	その他著者 2	Shwartz, RA	New Jersey Medical School 皮膚科
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	進行期乳房外 Paget 病における low dose FP 療法の効果を検討する	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	名古屋大病院皮膚科	
	対象者	67 歳男の進行期乳房外 Paget 病患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (1)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (4)	
	介入 (要因曝露)	low dose FP 療法	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	腫瘍縮小率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3	有害反応	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
レビューコメント	レビューワー氏名	高田 実	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V)	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease/carcinoma successfully treated with a combination chemotherapy: report of two cases.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	PagetCQ11-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ V ）	
	Pubmed ID	16334862	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	32	
	号	8	
	ページ	632-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2005		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mochiomi, Y.	鹿児島大皮膚科
	その他著者 1	Sakamoto, R.	同上
	その他著者 2	Gushi, A.	同上
	その他著者 3	Hashiguchi, T.	同上
	その他著者 4	Mera, K.	同上
	その他著者 5	Matsushita, S.	同上
	その他著者 6	Nishi, M.	同上
	その他著者 7	Kanzaki, T.	同上
	その他著者 8	Kanckuta, T.	同上
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	進行期乳房外 Paget 病における MMC,Epirubicin, Cisplatin, 5-FU, Vineristic 併用療法の効果を検討する	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	鹿児島大病院皮膚科	
	対象者	62 歳女、78 歳男の進行期乳房外 Paget 病患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (1)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (5)	
	介入 (要因曝露)	MMC,Epirubicin, Cisplatin, 5-FU, Vineristic 併用療法	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	腫瘍縮小率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	有害反応	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
レビューコメント	レビューワー氏名	高田 実	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 2 例とも化学療法の高効率が高いリンパ節への転移例であり、その他の臓器転移に対する有効性は不明。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ転入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Metastatic extramammary Paget's disease successfully controlled with tumour dormancy therapy using docetaxel	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	PagetCQ11-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	PubMed ID	16433815	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	154	
	号	2	
	ページ	375-6	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2006		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Fujisawa Y	筑波大皮膚科
	その他著者 1	Umebayashi Y	同上
	その他著者 2	Otsuka F	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目		目的	進行期乳房外 Paget 病における low dose Docetaxel 療法の効果を検討する
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	筑波大病院皮膚科	
	対象者	69 歳男の進行期乳房外 Paget 病患者	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (1)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (4)	
	介入 (要因曝露)	low dose Docetaxel 療法	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	腫瘍縮小率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	有害反応	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	骨転移による疼痛の改善、肺転移の一部の消失がみられ、血清 CEA 値も低下した。特別な有害反応は認められず、QOL の著しい改善がみられた。	
	結論	low dose Docetaxel 療法は進行期乳房外 Paget 病の QOL の改善に有用であり、tumour dormancy therapy のひとつとして有力な選択肢となりうる。	
	備考	乳房外 Paget 病、Q11 文獻 4	
レビューコメント	レビューワー氏名	高田 実	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V)	

一次研究用フォーム		データ転入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiotherapy for perianal Paget's disease.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	P C Q 1 2 - 1	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (1 V)	
	PubMed ID	12206637	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Oncol (R Coll Radiol)	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号		
	ページ	272-84	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2002 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Brown RS	Middlesex 病院
	その他著者 1	Lankester KJ	同上
	その他著者 2	McCormack M	同上
	その他著者 3	Power DA	同上
	その他著者 4	Spittle MF	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目		目的	肛門周囲原発 Paget 病の放射線療法の役割を検討する
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	Middlesex 病院	
	対象者	肛門周囲原発 Paget 病 6 例 年齢：63~86 歳 癌の合併：4 例 レビュー (1966 年~2001 年までの英語で書かれた論文)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (5)	
	介入 (要因曝露)	放射線療法前の治療 局所切除、5FU クリームなど 放射線療法 5 例は根治的放射線療法 (36~50 Gy)、1 例は姑息的放射線療法 4 例は化学療法併用放射線療法 (浸潤癌であったため)	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	生存	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	無病生存 2 例、有病生存 (肛門周囲再発) 1 例、他病死 2 例、不明 1 例 (Table 1) レビュー： 5 年生存率：35% (初期治療としての放射線療法)、74% (手術後の再発例に対する放射線療法)、20% (浸潤癌)、94% (非浸潤癌)。 無増悪生存 15% (癌が併存している症例)。	
	結論	放射線療法はこれまで本疾患には有効でないとされてきたが、有用性はある。	

	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	鹿間 直人
	レビュワーコメント	臨床データはわずか6例のみであるが、他の論文のレビューを詳細に検討している。(Table 2, 3, Figure 1-4)。症例集積研究とも考えられるが、詳細に検討されていること、本症の報告が少ないことを勘案して、後ろ向きコホート研究に準じるものと評価した。

レビュー研究用フォーム		データ配入欄	
基本情報	対象疾患	Paget 病	
	タイプ	レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	P C Q 1 2 - 2	
寄誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (1)	
	Pubmed ID	15713139	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Bjog	
	雑誌 ID		
	巻号	112	
	ページ	3	
	ISSN ナンバー	273-9	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
発行年月	2005 年		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Shepherd V	Clatterbridge Center
	その他著者 1	Davidson EJ	Countess of Chester Hospital NHS Trust
	その他著者 2	Davies-Humphreys J	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

レビュー研究の6項目	目的	乳房外 Paget 病の臨床像、組織像、治療法、予後因子を明らかにする。
	データソース	Medline
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	Medline で、Vulva Paget's, extramammary Paget's, EMPD, vulva AND Paget's and vulva AND EMPD で検索。
	主な結果	発生部位 会陰部、肛門周囲、陰茎、陰囊など 治療法 外科療法：最も標準的治療。大きな切除範囲でも再発率は高い(34%)。浸潤癌では非浸潤癌より再発率が高かった(67% vs. 35%)。Radical vulvectomy, radical hemivulvectomy, wide local excision での再発率は、15%、20%、43%であった。切除断端陽性例の再発までの期間は平均で1.4年、断端陰性例では4.4年。 放射線療法：切除術とのランダム化比較試験はなかった。手術不能例、内科的理由による手術不能例、手術後の再発例では放射線療法が考慮された。手術単独では再発の危険性が高いと判断される場合には術後放射線療法が考慮された。 全身化学療法：手術、放射線療法の適応とならない症例に行われた。 予後因子 浸潤癌、尿管侵襲、リンパ節転移、secondary EMPD
	結論	手術療法が標準的治療であるが再発率は約40%。放射線療法や抗癌剤クリーム、全身化学療法などが試みられている。
備考		
レビュワーコメント	レビュワー氏名	鹿間 直人
	レビュワーコメント	よくまとまったレビューである。 レベル 1 厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討しており、それに準ずるものと評価した。

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease: role of radiation therapy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	PCQ12-3	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	12060165	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Australas Radiol	
	雑誌 ID		
	巻	46	
	号	2	
	ページ	204-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2002 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Guerrieri M	Newcastle Mater Misericordiae 病院
	その他著者 1	Back MF	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外 Paget 病の放射線療法の意義を検討する。	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	Newcastle Mater Misericordiae 病院	
	対象者	77 歳男性 腋窩に病変 (潰瘍形成を伴う、80 x 50 15 mm)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (2)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (1)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (5)	
	介入 (要因曝露)	放射線療法: 4MV X 線、60 Gy/30 回、主腫瘍に 2 cm のマージンをつけて照射し、追加照射として 12MeV の電子線で 10 Gy/5 回追加。照射後、タモキシフェン内服。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
2	臨床経過	1.主要 2.副次 3.その他 (3)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	腫瘍は消失し、1 年経過すると再発なし。		
結論	手術不能例や機軸面を考慮し手術が望ましくない症例では根治的放射線療法は有用である。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人	
	レビューワーコメント	症例報告ではあるが、考察で良くまとめたレビューをしている (Table 1)。レベル V	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Paget's disease of the vulva: pathology, pattern of involvement, and prognosis	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	PCQ12-4	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究による) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズによる) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I V)	
	Pubmed ID	10739709	
	医中誌 ID		
	雑誌名	GynecolOncol	
	雑誌 ID		
	巻	77	
	号	1	
	ページ	183-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2000 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Parker LP	MD アンダーソン癌センター
	その他著者 1	Parker JR	同上
	その他著者 2	Bodurka-Beyers D	同上
	その他著者 3	Deavers M	同上
	その他著者 4	Beyers MW	同上
	その他著者 5	Shen-Gunther J	Baylor College of Medicine
	その他著者 6	Gershenson DM	MD アンダーソン癌センター
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			
一次研究の 8 項目	目的	会陰部 paget 病の病理像、浸潤形式、予後を明らかにする。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	MD アンダーソン癌センター	

一次研究の 8 項目	対象者	会陰部原発 Paget 病 76 例 非浸潤性(46 例)、浸潤性(9)、非浸潤性+深部に浸潤(13)、非浸潤性+癌の合併(13) 部位: 一側 labium(47%)、両側(27)、肛門周囲(19)、クリトリス(7)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	手術: 局所切除(20 例)、vulvectomy(46) 放射線療法: 4 例、化学療法: 1 例、5FU クリーム: 1 例、無治療: 2 例	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3	再発形式	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	浸潤性、非浸潤性+深部に浸潤、非浸潤性+癌の合併の予後は非浸潤性に比べ生命予後が不良。化学療法、放射線療法を受けた症例は予後不良。局所切除を受けた症例は根治的な広範囲切除を受けた症例に比べ生命予後が良好。局所切除は局所再発率が高い。		
結論	浸潤性、非浸潤性+深部に浸潤、非浸潤性+癌の合併の予後は非浸潤性に比べ生命予後が不良。局所切除は局所再発率が高い。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人	
	レビューワーコメント	より積極的な治療を行わなければならない症例が予後不良であるのは当然であり、化学療法、放射線療法を受けた症例の生命予後が不良であるなどの不適切な解釈が散見される。 レベル I V	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Metastatic extramammary Paget's disease: dramatic response to combined modality treatment	
	論文の日本語タイトル	P C Q 1 2 - 5	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称		
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ V ）	
	Pubmed ID	2836660	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	38	
	号	1	
	ページ	38-44	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1988 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Balducci L	Mississippi Medical Center
	その他著者 1	Athar M	同上
	その他著者 2	Smith GF	同上
	その他著者 3	Khansur T	同上
	その他著者 4	McKenzie ED	同上
	その他著者 5	Crawford ED	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			
一次研究の 8 項目	目的	転移を有する陰嚢原発 Paget 病に対し集学的治療を施行した症例の経過を報告する。	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	Mississippi Medical Center	

対象者	陰嚢原発の Paget 病を有する患者（60 歳男性）		
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (1)		
対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (4)		
	介入（要因曝露）	局所切除+鼠径リンパ節摘出術 骨転移および腹部リンパ節転移を確認後 疼痛緩和のための放射線療法（48.5 Gy） 化学療法：MMC、5FU	
	エンドポイント（外観）	エンドポイント	区分
	1	腫瘍の縮小	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	臨床経過	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	腹部リンパ節転移は化学療法後に消失。8 か月後に肝転移、肺転移が生じ死亡。		
結論	短期的には化学療法や放射線療法は転移性の Paget 病に有用。		
備考			
レビューワー氏名	鹿間 直人		
レビューワーコメント	レベル V		

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease of the perineal skin: role of radiotherapy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	P C Q 1 2 - 6	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I V ）	
	Pubmed ID	1324902	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	24	
	号	1	
	ページ	73-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1992 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Besa P	MD アンダーソン癌センター
	その他著者 1	Rich TA	同上
	その他著者 2	Delefos L	同上
	その他著者 3	Edwards CL	同上
	その他著者 4	Ota DM	同上
	その他著者 5	Wharton JT	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

目的	乳房外 Paget 病の治療成績を解析する		
研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
セッティング	MD アンダーソン癌センター		
対象者	65 例に乳房外 Paget 病患者 男性 13 例、女性 53 例 平均年齢 66 歳（38～91） 部位：会陰部 47 例、肛門周囲 11 例、陰嚢 7 例 病理組織：Paget 病のみ 43 例、浸潤性癌の成分あり 22 例 腫瘍径：4 cm 未満 8 例、4 cm 以上 31 例、他不明		
対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)		
	介入（要因曝露）	Group 1（Paget 病のみ） 38 例：手術単独療法 3 例：放射線療法単独 2 例：切除+放射線療法 Group 2（浸潤成分あり） 9 例：手術単独 5 例：手術+放射線療法 4 例：放射線療法単独 放射線療法：40-60 Gy 化学療法は 4 例に施行	
	エンドポイント（外観）	エンドポイント	区分
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	

	主な結果	30例の Paget 病成分のみの症例で切除単独治療を受けた症例の局所再発率：40%。初期治療として治療された Paget 病成分のみの症例で本疾患による死亡例なし。3例の根治的放射線療法(56 Gy)投与例はすべて制御。腺癌成分を有する症例の手術単独治療での局所再発率は75%。3例の手術+放射線療法で治療された症例はすべて制御。
	結論	合併症などのために手術ができない症例では50 Gy以上を投与すべき。手術単独では局所再発しやすい症例では術後放射線療法として55 Gy以上を投与すべきである。
	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	鹿間 直人
	レビュワーコメント	Group 2 の治療内容の記載が曖昧で治療内容を把握しにくい。 レベル 1 V

一次研究用フォーム		データ転入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiotherapy: an effective treatment for extramammary Paget's disease	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	P C Q 1 2 - 7	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I V ）	
	Pubmed ID	1848089	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Oncol (R Coll Radiol)	
	雑誌 ID		
	巻	3	
	号	1	
	ページ	3-5	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1991 年		
著者情報	筆頭著者	氏名	所属機関
	筆頭著者	Brierley JD	St Luke's Hospital
	その他著者 1	Stockdale AD	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	乳房外 Paget 病における放射線療法の有用性を検討する。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	St Luke's Hospital	
	対象者	6例の乳房外 Paget 病 (72~84 歳) 2例男性、4例女性 部位：会陰部 (2例)、肛門周囲 (2)、陰囊 (1)、陰茎 (1)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (5)	
	介入 (要因曝露)	6例全例で放射線療法が施行された 総線量：30~54 Gy (3~25 分割) 電子線または表在 X線照射装置	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
2	生存	1.主要 2.副次 3.その他 (3)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	6例中4例再発なし（経過観察期間：13~51例）。 1例は2年後に局所再発。もう1例は13か月後に照射野辺縁から再発。		
結論	病変の局所制御のため放射線療法は有用である。		
備考			

レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	症例によっては1回線量が10 Gyと現在使用することは考えられないような線量が用いられているものもあり、要注意。 レベル I V 症例集積研究とも考えられるが、詳細に検討されていること、本症の報告が少ないことを勘案して、後ろ向きコホート研究に準じるものと評価した。

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Paget's disease of the vulva: prevalence of associated vulvar adenocarcinoma, invasive Paget's disease, and recurrence after surgical excision	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での日次名称	P C Q 1 2 - 9	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I V ）	
	Pubmed ID	9914572	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Am J Obstet Gynecol	
	雑誌 ID		
	巻	180	
	号		
	ページ	24-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1999 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Fanning J	Medical Collage of Ohio
	その他著者 1	Lambert HC	同上
	その他著者 2	Hale TM	同上
	その他著者 3	Morris PC	同上
	その他著者 4	Schuerch C	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			
一次研究の 8 項目	目的	会陰部原発 Paget 病における腺癌の合併、浸潤癌の合併を調査し、切除後の再発を検討する。	

研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
セッティング	Medical Collage of Ohio	
対象者	会陰部原発の Paget 病 100 例	
対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
介入 (要因曝露)	Radical vulvectomy(58 例)、radical hemivulvectomy(10)、modified superficial vulvectomy(32)、鼠径リンパ節摘出(4)	
エンドポイント (7対称)	エンドポイント	区分
1	再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
2	生存	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	再発率 Radical vulvectomy : 31%、radical hemivulvectomy : 20%、 modified superficial vulvectomy : 43% 非浸潤性 : 35%、浸潤性 : 33%、腺癌合併例 : 25% 生存 60 例が非浸潤性生存中、38 例が他病死、1 例が浸潤性生存、1 例が 腺癌の転移で死亡	
結論	腺癌を含む症例や浸潤癌を有するものはまれである。再発率は高い。	
備考		
レビューワー氏名	鹿間 直人	
レビューワーコメント	レベル I V	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Extramammary Paget's disease: outcome of radiotherapy with curative intent	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	P C Q 1 2 - 1 0	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ V ）	
	Pubmed ID	12823291	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Exp Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	28	
	号	4	
	ページ	360-3	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003 年	
	著者情報	氏名	氏名
筆頭著者		Luk NM	Prince of Wales Hospital
その他著者 1		Yu KH	同上
その他著者 2		Yeung WK	同上
その他著者 3		Choi CL	同上
その他著者 4		Teo ML	同上
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			
一次研究の 8 項目	目的	乳房外 Paget 病に対する根治的放射線治療の成績を検討する。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	Prince of Wales Hospital	

対象者	6例の乳房外 Paget 病 (43~79 歳) (2例は深部に腺癌を有する) 2例: 初回治療、3例: 手術後再発例、1例: 術後補助療法		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)		
介入 (要因曝露)	線質: 表在X線、超高压X線、組織内照射、電子線 初期治療としての根治的放射線療法: 42 Gy/14回、66 Gy/28回 再発例の放射線療法: 33 Gy/10回、42 Gy/14回、60 Gy/27回 術後補助療法: 60 Gy/30回		
エンドポイント (79項目)	エンドポイント	区分	
	1	奏効率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	再発形式	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	奏効: CR 5例、PR 1例 CRの症例のうち1例が辺縁再発 深部に腺癌を有する2例は遠隔転移で死亡 放射線療法の有害事象: 皮膚炎 (重篤なものなし)		
	結論	乳房外 Paget 病に対し、放射線療法は有用。	
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人	
	レビューワーコメント	レベル V 症例集積研究とも考えられるが、詳細に検討されていること、本症の報告が少ないことを勘案して、後ろ向きコホート研究に準じるものと評価した。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiotherapy for in situ extramammary Paget disease of the vulva	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	P C Q 1 2 - 8	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ V ）	
	Pubmed ID	12775320	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatolog Treat	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号	2	
	ページ	119-23	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003 年	
	著者情報	氏名	氏名
筆頭著者		Moreno-Arias GA	Barcelona 大学
その他著者 1		Conill C	同上
その他著者 2		Sola-Casas MA	同上
その他著者 3		Mascaro-Galy JM	同上
その他著者 4		Grimalt R	同上
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			
一次研究の 8 項目	目的	会陰部原発の非浸潤性 Paget 病の初期治療としての放射線療法の成績を検討する。	
	研究デザイン	症例報告	
	セッティング	Barcelona 大学	

対象者	76歳と92歳の女性 会陰部原発の非浸潤性 Paget 病 72歳の女性はステロイド軟膏による治療歴あり		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (2)	
対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (2)		
対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (5)		
介入 (要因曝露)	放射線療法: 40 Gy/20回 (週5回法) 表在X線装置 100kV 使用 照射野: 視認できる腫瘍から 3cm マージンをとった範囲		
エンドポイント (79項目)	エンドポイント	区分	
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	臨床経過	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	両者とも完全緩解に至り、再発を来していない。(経過観察期間: 1~1.5年)		
	結論	放射線療法は非浸潤性乳房外 Paget 病の根治的治療としての価値がある。	
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人	
	レビューワーコメント	レベル V	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	乳房外 Paget 病	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiotherapy for perianal Paget's disease.	
診療ガイドライン情報	論文の日本語タイトル	論文の日本語タイトル	
書誌情報	論文の引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	論文の引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（I V）	
	PubMed ID	12206637	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Oncol (R Coll Radiol)	
	雑誌 ID		
	巻	14	
	号		
	ページ	272-84	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.看護 3.看護 4.その他 (1)	
	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2002 年	
	著者情報	氏名	
所属機関			
筆頭著者		Brown RS	Middlesex 病院
その他著者 1		Lankester KJ	同上
その他著者 2		McCormack M	同上
その他著者 3		Power DA	同上
その他著者 4		Spittle MF	同上
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	肛門周囲原発 Paget 病の放射線療法の役割を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	Middlesex 病院	
	対象者	肛門周囲原発 Paget 病 6 例 年齢：63～86 歳 癌の合併：4 例 レビュー（1966 年～2001 年までの英語で書かれた論文）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (1)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児 8.乳幼児・小児・青年 9.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (5)	
	介入（要因曝露）	放射線療法前の治療 局所切除、5FU クリームなど 放射線療法 5 例は根治的放射線療法（36～50 Gy）、1 例は姑息的放射線療法 4 例は化学療法同時併用放射線療法（浸潤癌であったため）	
	エンドポイント（7外）	エンドポイント	区分
	1	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	生存	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	無病生存 2 例、有病生存（肛門周囲再発）1 例、他病死 2 例、不明 1 例（Table 1） レビュー： 5 年生存率：35%（初期治療としての放射線療法）、74%（手術後の再発例に対する放射線療法）、20%（浸潤癌）、94%（非浸潤癌）。 無増悪生存 15%（癌が併存している症例）。		
結論	放射線療法はこれまで本疾患には有効でないとされてきたが、有用性はある。		

	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	鹿間 直人
	レビュワーコメント	臨床データはわずか 6 例のみであるが、他の論文のレビューを詳細に検討している。(Table 2, 3, Figure 1-4)。症例集積研究とも考えられるが、詳細に検討されていること、本症の報告が少ないことを勘案して、後ろ向きコホート研究に準じるものと評価した。